

KMJ合同研究部会

在日コリアン女性いまの現在

KMJは2017年2月18日(土)、堺市立女性センターにおいて、第27回民族差別と啓発にかかわる研究部会と第5回アジア文化研究部会の合同研究会として「在日コリアン女性いまの現在—複合差別調査報告から」を開催した。開催にあたって、在日本大韓民国民団大阪府堺支部と共催し、大阪府堺市の後援を得て、堺市立女性センターおよび堺自由の泉大学の全面協力のもと、300人近くが参加した。

研究報告会は、「アプロ未来を創造する在日コリアン女性ネットワーク」(李月順代表)が2015年から実施した「第2回在日コリアン女性実態調査」を軸に、在日コリアン女性が、民族と女性の複合差別の立場に置かれていることを、調査を通じて明らかにした。

最初に「マイノリティー女性にたいする複合差別」について、大阪経済法科大学の元百合子さんが基調講演をおこなった。「複合差別」の定義を「異なる事由による差別が交差することにより、その客体に対して単なる加算以上の影響を与え、本来持つ力を低下させる(ディスエンパワーする)結果、回避・対応・抵抗して生きることを困難にすること」とした。

次に「アプロ未来を創造する在日コリアン女性ネットワーク」の李月順さんと梁優子さんが調査報告を行った。この調査の目的は①在日コリアン女性を、不可視化されてきた存在から可視化された「見える」存在にすること、②「在日コリアンであると同時に女性であること」による生きにくさを明らかにすること、③国際社会や日本社会にこの問題を提示し、訴えるための客観的データを得ることだったと説明。調査で得られた「日本人女性と比べて経済的に困窮していたこと。在日コリアン社会の男尊女卑。在日である自己の存在の不確かさ、不安。社会との違和感。疎外感などなど。それらすべてが個人の資質の問題として解決せねばならぬ必要に迫られて、私は追い立てられるように62年間を生きてきました」(60代)といった回答などが紹介された。

最後のシンポジウムでは堺市女性団体協議会委員長で堺市議会議員の山口典子さんが「ヘイトスピーチなどの差別は戦争へとつながり、戦争がおこればその最大の被害者は子どもと、女性になる。だからけっして差別は許してはいけない」と力強く発言された。